4 市のうつりかわり

●川西市の人々のくらしは、どのようにかわってきたのでしょうか。

川西能勢口駅前（1978年ごろ）

川西能勢口駅前（2023年）

1 市の様子と人々のくらしのうつりかわり

つかむ

川西市は昔、どのようなまちだったのでしょうか。

かわってきたまちの様子

だいきさんたちは、地いきの様子を調べる中で、川西市は昔、どんなまちだったのかが気になりました。

「昔の川西能勢口駅前には、ふみきりがあるね。道路のはばも、せまいね。」

「今の駅前は、ふみきりもなくなり、道路のはばも広くなり、車の行き来が便利になったね。」

「昔と今では、まちはどんなふうにかわったのかな。」

多田こんにゃく橋（1960年ごろ）

黒川小学校でのじゅぎょうの様子（1976年ごろ）

川西小学校（1963年ごろ）

美山台と丸山台の住たく地開発（1970年ごろ）

「川に入って、人が遊んでいるよ。」

「黒川小学校で学習をしているよ。子どもの数が少ないね。」

「川西小学校の校しゃが少しちがうよ。川西能勢口駅周辺のビルもひくいよ。」

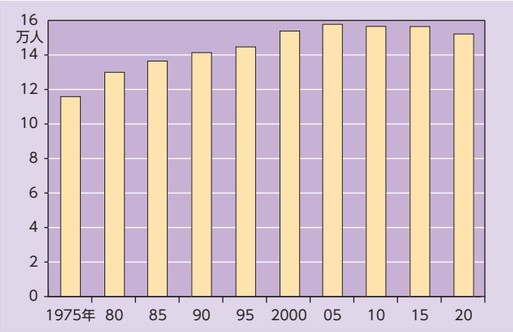
「丸山台も家がまだたっていないね。」

「古くからのこるたて物や道具を調べれば、昔の人のくらしの様子がわかるんじゃないかな。」

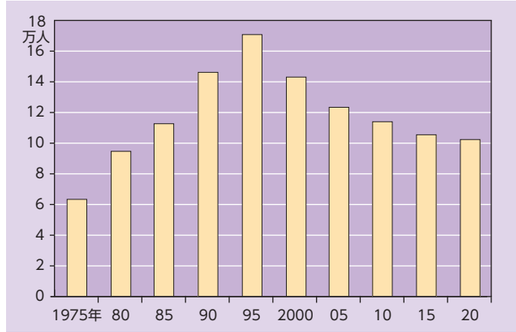
道しるべ

まちの中で次の写真のようなものを見たことはありませんか。これは、「道しるべ」といいます。今も道路には、行き先をしめす道路標示がありますが、昔の人々は、遠くに行くとき、この石でつくられた道しるべをたよりにして、目的地に行きました。

市内でもっとも古い道しるべ（加茂）



川西市の人口のうつりかわり
〔川西市統計要覧　令和４年度版〕



能勢電鉄の１日の平均りよう者数のうつりかわり
〔能勢電鉄資料ほか〕

2 これからのくらしとわたしたちのねがい

調べる

川西市はどのように人口がふえてきたのでしょうか。

能勢電鉄〔写真：能勢電鉄〕

能勢電鉄をりようする人がへりつづけると、どうなってしまうのかな。

川西市の人口と鉄道

今から110年以上前の1913（大正２）年、妙見山へおまいりに行く人や、能勢地方でとれたものを運ぶために能勢電鉄が開通しました。

その後、住たく地が次々につくられて川西市に住む人がふえたため、能勢電鉄の役わりは大阪や神戸などへはたらきに行く人たちを運ぶことが中心になりました。

ところが、2000（平成12）年ごろから、能勢電鉄をりようする人の数はへってきています。川西市では、子どもの数がへり、お年よりの数がふえてきています。そのため、能勢電鉄を通勤・通学でりようする人がへってきていると考えられています。

大学の先生によるMM教育

川西市のMM教育

市役所の人の話

川西市では、能勢電鉄や阪急バスが活やくしています。

これまでは、市内のめぐまれた公共交通を使って、たくさんの人が出かけることで、川西市全体がにぎわってきました。

ところが、最近では公共交通を使う人がへって、能勢電鉄や阪急バスの運行本数がへってきています。このまま公共交通を使う人がへりつづけると、川西市はくらしにくいまちになってしまいます。

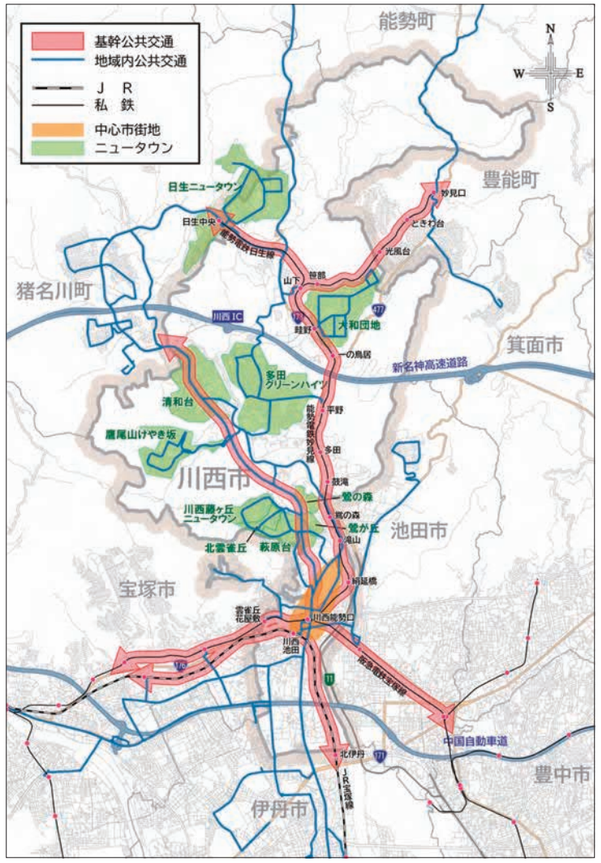
そこで川西市では、もう一度みんなに公共交通の大切さや、川西市がくらしやすいまちになるための方法を考えてもらうために、モビリティ・マネジメント教育（MM教育）に取り組んでいます。

自分たちがくらす川西市の未来をいっしょに考えていきましょう。

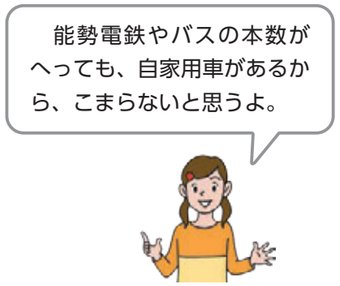
公共交通の会社によるMM教育

モビリティ・マネジメント教育（MM教育）

車のじゅうたい、かんきょう、人々のけんこう対さくを考えて、乗用車ばかりにたよるのではなく、公共交通を自分で考えてかしこく使えるようになるための教育です。川西市では、2006（平成18）年から取り組んでいます。



川西市の公共交通体けい



公共交通

みんながりようできる鉄道やバス・タクシーなどのことです。

川西市公共交通計画

川西市では、「川西市公共交通計画」という計画を進めています。自家用車がなくても子どもからお年よりまで、かいてきなかんきょうでくらせるように、公共交通のりようを進めていく計画です。

キセラ川西

川西インターチェンジ
〔写真は2017年11月時点、NEXCO西日本〕

これからのまちづくり

川西能勢口駅の北がわにあった工場地いきは、かんきょうのことを考えた住たくや店、そして水路もあるキセラ川西に、また畦野駅の西がわにあった山は、高速道路のインターチェンジになり、それぞれまちの活性化につながっています。

川西市のまちづくりは、しょうらいのことをみんなで考えながら計画的に進められていきます。

キセラ川西を流れるきせきの水路

滝山町からキセラ川西にのびる人工水路では、自然に近いかんきょうのもと、数少ないきちょうな生物が、30種類以上かくにんされています。

ヤリタナゴ

体長は10～13cm。マツカサガイがいないとはんしょくしません。

マツカサガイ

からの大きさは約60mm。ヤリタナゴがたまごをうみつけるきちょうな貝です。

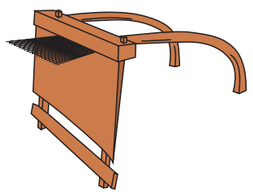
まとめる

みんながくらしてみたいと思う川西市の未来について、話し合ってみましょう。

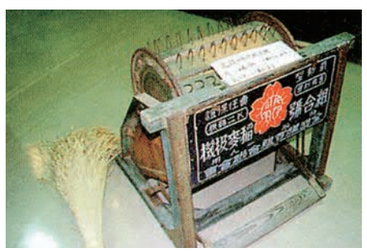
調べる

道具は、くらしの中でどのように使われているのでしょうか。

コンバイン



千歯こき



だっこくき

すき〔写真：精華町教育委員会〕

道具からくらしの様子を調べる

昔のくらしに使われていた道具は、今とまったくちがう形をしたものや、よくにた形をしていたものなどさまざまです。

50年以上前、農作業に使われていた道具について、農家のおじいさんに話を聞きました。

農家のおじいさんの話

今はコンバインというきかいを使って、いねかりとだっこくをしていますが、昔はすべて、道具を使った手作業で行っていました。かまでかりとったいねは、千歯こきやだっこくきを使って、だっこくしました。

田畑は、すきという道具を牛に引かせて、たがやしていました。どれもとても時間がかかり、たいへんな作業でした。

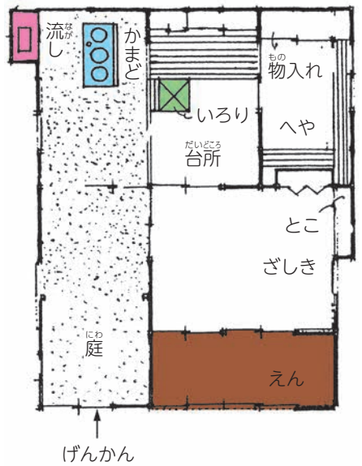
「農作業には、たくさんの道具を使っていたことがわかりました。」

「きかいがない時代は、たいへんだったんだね。」

「昔の道具について、もっとくわしく知りたいな。」

川西市歴史民俗資料館

深山池公園の中にある古い民家２けんは、もとは国崎にたっていましたが、一庫ダムがつくられることで今の場所にうつされ資料館となりました。約200～300年前のくらしがわかるきちょうなたて物で、兵庫県の文化財指定も受けています。



川西市歴史民俗資料館の中の様子

だいきさんたちは、川西市歴史民俗資料館をおとずれ、昔の人々が、どんなくらしをしていたのかを調べることにしました。

「屋根の形がかわっているね。今はあまり見かけない形だよ。」

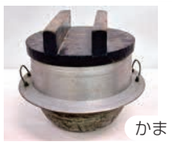
「家の中には、かまどがあるよ。ここで料理をつくっていたのかな。」

「いろりのまわりに、家族が集まって、ごはんを食べたんだね。」

「家庭の道具は、どのようにかわってきたのかな。」

かまど

いろり

	明治・大正		昭和		平成	令和
	100年ぐらい前	おじいさん、おばあさんが子どものころ	50年ぐらい前	お父さん、お母さんが子どものころ	わたしたちが生まれたころ	今
料理	かまど  かま ひつ			電気すいはんき 電気すいはんき 電子レンジ		
服・せんたく	せんたく板とたらい 火のし 炭火アイロン ローラー式せんたくき			電気アイロン 全自動せんたくき コードレスアイロン	
テレビ・ラジオ	ラジオ ちく音き 白黒テレビ			カラーテレビ うす型テレビ		
電話	じしゃく式電話 ダイヤル式電話			プッシュフォン けいたい電話 スマートフォン	

道具年表〔写真：金沢くらしの博物館ほか〕

まとめる

道具のうつりかわりを年表にまとめてみましょう。

くらしのうつりかわり

だいきさんたちは、農作業に使われていた道具のほかに、家庭で使われていた道具について調べ、道具年表をつくることにしました。

「同じ役わりをする道具を、年表にしてならべると、昔と今のちがいがよくわかるね。」

「おじいさんやおばあさんが子どものころと、わたしたちが生まれ育ったころとでは、使われている道具がかなりちがっているね。」

「せんたくは、手作業から全自動にかわっていったね。」

「電話やテレビは、軽くなったり、小さくなったりして、使いやすくなっているよ。」

「くらしをよりよくしようとする人たちのねがいがあって、道具はかわっていったんだね。」

「道具のほかにも、行事やでんとう文化などについても調べてみると、川西市の昔のことがわかりそうだね。」

年表のつくり方

- いちばん上に横じくをつくり、左のはしを100年前、右のはしを今にする。
- くらしのうつりかわりがわかるように、だれが子どものころだったかをかきこむ。
- 年表に調べた道具の絵や写真をはる。